

## 発表者紹介

### ■研究発表■

曹 怡 CAO Yi

（お茶の水女子大学大学院博士後期課程一年）

2019 年 7 月中国同済大学日本語学科を卒業し、2021 年 4 月からお茶の水女子大学大学院比較社会文化学専攻・日本語日本文学コースにて二年間、中世和歌について研究した。2023 年 4 月から同大学の博士後期課程に進学し、研究テーマは「中世歌人の新しい中国文学への摂取」である。2023 年 11 月第十八回国際日本学コンソーシアムで、「京極派歌人の『柳』詠考―水墨画との関係について―」を題として発表し、その発表内容に基づき、第二十号『比較日本学教育研究部門研究年報』に論文掲載の予定である。

梁 旭璋 LIANG Xuzhang

（重慶交通大学外国語学院 専任講師）

2017 年一橋大学大学院言語社会研究科留学。2021 年同大学学術博士。2019 年から 2021 年、学術振興会特別研究員 DC2。2020 年から 2021 年、国文学研究資料館特別利用研究員。研究分野は日中茶文化交流研究、江戸時代の茶書受容研究である。既発表論文に「日本近世煎茶書の研究：漢籍受容と文人趣味の展開を中心に」などがある。

王 順鑫 WANG Shunxin

（中国人民大学外国語学部日本古典文学専攻 博士後期課程二年）

2019 年中国山東大学日本語学科を卒業。2022 年中国人民大学日本語学科にて修士号取得。研究分野は日本近世読本で、特に都賀庭鐘の読本研究に関心がある。

**ギユモ オリアンヌ GUILLEMOT Oriane**

(お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科博士後期課程比較社会文化学専攻)  
フランス国立東洋言語文化大学すなわちイナルコの修士課程を修了の後、2018 年にお茶の水女子大学に研究生として留学し、2020 年度から博士後期課程の学生として、『うつほ物語』をはじめとする、日本の平安時代の物語文学を研究している。特に平安物語と笑いとの関係について研究している。

『うつほ物語』の研究は『国文/お茶の水女子大学国語国文学会編』や『日本文学』などに投稿中。

**董 航 DONG Hang**

(東京経営短期大学経営総合学科 講師)

中国北京外国語大学を卒業後、留学のために来日。成蹊大学大学院文学研究科で修士号(文学)を取得し、関西学院大学経営戦略研究科で修士号(経営管理)を取得した後、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科で博士号(人文科学)を取得。専門は東アジア文化交渉学、国際経営学。国内外の学術誌に論文を発表しており、近年は近世東アジアにおける善書文化の生成と受容・変容というテーマに取り組んでいる。

**任 姍 REN Shan**

(青山学院大学日本文学部 客員研究員)

中国の復旦大学の日本語学と文学部で文学士号を取得し、その後、カナダのアルバータ大学の東アジア研究部で日本近世文学を研究し、2019 年に修士号を獲得した。現在はアメリカのオレゴン大学の博士課程在籍中で、研究分野は 19 世紀の日本文学で、特に曲亭馬琴の後期の作品に於ける儒学思想の応用について興味を持っている。今回の発表は『開巻驚奇侠客伝』に於ける「盗賊」のメタファーについて検討したものである。

**桂 嘉雨 Gui Jiayu**

(ハーバード大学 東アジア研究修士二年)

ハーバード燕京研究所にも所属。日本近現代文学専攻。主に女性文学や戦時中文学、女性誌における文学指導について研究している。今までに各学会で発表した論文は「戦略としての作家像：林芙美子「作家の手帳」を読む」「<家>の変容とその二重性：林芙美子『幸福の彼方』読解の試み」「Crossing the Border: Feminism and Colonialism in the Fiction of *Women's Voices*」「自己欺瞞を乗り越えて：フェミニズムの視座から見る林芙美子「晩菊」」など。

**高 啓豪 KAO Chihao**

(台湾・国立政治大学日本語文学系 専任助理教授)

台湾・政治大学日本語文学系の出身で、台湾大学日本語文学系大学院修士課程を経て、北海道大学大学院文学研究科博士課程では中村三春教授の指導を受けた。のち台北商業大学助理教授を経て、現職。専攻は日本近代文学で、とりわけ芥川龍之介をはじめ大正時代の作家作品を中心に研究に取り組んでいる。直近の雑誌論文に「人工の虚無——芥川龍之介「庭」」(『政大日本研究』第二十号、2023年1月)がある。

**カルブネ マリア CARBUNE Maria**

(ハイデルベルク大学日本学研究科 博士後期課程)

ユディット・アロカイ教授の指導の下、明治期の御歌所という宮内省の和歌派の成立と活動を、文学的かつ政治的な視点から研究している。2022年の夏に日本学術振興会から奨学金をいただき、学習院大学に研究滞在した。発表に関係する論文に、「ナショナル・アイデンティティの形成 歌会始、御製と日露戦争」(ハイデルベルク大学『文論』、2022年)、「皇室イメージによる国家建設——明治天皇の描写における脆弱性とカリスマ性」(ヴェネツィア・カフォスカリ大学の『カ・フォスカリ大学研究紀要』(AnnalidiCa,Foscarj) 2023年)がある。

**ビアンコ アンドレア BIANCO Andrea**

(慶應義塾大学 特別短期留学生)

2022年に修士課程を修了し、同年にナポリ東洋大学の博士課程に入学した。日本近代文学における温泉表象に関して研究している。イタリア文化会館と慶應義塾大学との交換協定に基づいた奨学金に採用され、現在慶應義塾大学で留学をしている。既発表論文に「官能の世界にて——川端康成の温泉文学における身体と女色」などがある。

**梁 馨蓉 LIANG Xinrong**

(神戸大学大学院 博士課程後期課程)

神戸大学人文学研究科博士前期課程修了。研究分野は日本モダニズム文学。とくに1920年代の新感覚派に関心を持っており、その文学的営為と同時代に隆興した前衛芸術運動との影響関係の解明に取り組んでいる。主要論文は「中河與一「氷る舞踏場」論——機械時代における詩的精神」(『国文論叢』2024・3)、「横光利一「街の底」論——『文芸時代』における構成派の受容」(『横光利一研究』2024・3)。

シャヴィス ゴンサルヴィス ピント フェリッペ CHAVES Gonçalves Pinto, Felipe

(筑波大学人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群 国際日本研究学位プログラム 博士後期課程一年)

2020 年リオデジャネイロ連邦大学文学学類卒。2018 年度東京外国語大学留学。文学理論・比較文学を軸にし、ブラジルと日本を中心に、社会問題と文芸作品の関連性を研究している。主な論文に、“The first modern Japanese? A brief essay on possible modernity in Ishikawa Takuboku” (Oriente 23, 2023) 等がある。

李 越 LI Yue

(大阪大学人文学研究科日本学専攻基盤日本学コース 博士前期課程一年)

2022 年上海外国語大学日本文化経済学院日本語文学専攻卒業、2023 年から現職。研究分野は日本近現代文学。特に戦後文学に関心を持っており、大陸哲学の研究動向を参考することによって新たなメソドロジーを試みる。主な発表として、「恥の情動——大江健三郎「性的人間」論」(大阪大学・広島大学・神戸大学第一回日本近現代文学合同研究会)がある。

菊間 晴子 KIKUMA Haruko

(東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター 助教)

2021 年、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。研究分野は日本近現代文学、表象文化論。著書に『犠牲の森で 大江健三郎の死生観』(東京大学出版会、2023 年、第十二回東京大学南原繁記念出版賞)。論文に「「後期の仕事(レイト・ワーク)」にあった「希望」 大江健三郎の小説作品における死者とのコミュニケーションに着目して」(『日本近代文学』2017 年 5 月)、「●を超えて、あるいは●のなかで 『うたびこ』『0』に見る「喪」と「メランコリー」」(『ユリイカ』2020 年 3 月)などがある。

## ■インフォメーション・セッション発表■

**木越 俊介** KIGOSHI Shunsuke

(国文学研究資料館 教授)

博士(学術)(2002年9月 神戸大学)。研究分野は近世文学・小説。著書に『江戸大坂の出版流通と読本・人情本』(清文堂出版、2013)、『知と奇でめぐる近世地誌』(平凡社、2023)ほかがある。

**松永 瑠成** MATSUNAGA Ryusei

(国文学研究資料館 特任助教)

中央大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程修了。博士(文学)。専門は近世・近代における出版文化・貸本文化に関する研究。論文に「江戸・大坂における貸本屋組合の成立」(『近世文芸』一一八号、日本近世文学会、2023年7月)、「黎明期の初代大川屋錠吉」(『文学・語学』二三〇号、全国大学国語国文学会、2020年12月)、「大島屋伝右衛門と池田屋一統一売薬「処女香」を端緒として」(『出版研究』五〇号、日本出版学会、2020年3月)などがある。

**ウェルチ シャノン** WELCH Shannon

(東京大学東京カレッジ 特任研究員)

マサチューセッツ州出身。ピラノバ大学(ペンシルベニア州)で英語文学の学士号を取得し、ダートマス大学(ニューハンプシャー州)で比較文学の修士号を取得した。2022年にカリフォルニア大学サンディエゴ校で比較文学の博士号も取得した。研究は主に、日系ブラジル移民文学を研究し、特にジェンダー、セクシュアリティ、人種というテーマを対象にしている。

**黄 鶴翔** HUANG Hexiang

(筑波大学 国際日本研究プログラム 博士後期課程)

中国出身、2020年筑波大学人文社会研究科国際日本研究プログラム、博士前期課程入学、2022年から現職。研究は主に日本中世前期の和歌、『新古今和歌集』周辺、または和漢比較に関心がある。2023年1月和歌文学会例会で「『新古今和歌集』更衣尾張哀傷歌群について」を口頭発表した。2024年3月筑波大学『国際日本研究』「後鳥羽院の「遠鳥百首」における「ふるさと」と李煜宋軟禁時の作品における「国」の比較考察」を発表(予定)。

**小原 みと希 OHARA Mitoki**

(中央大学大学院文学研究科 博士課程後期課程)

平安中期の仮名文学作品における表現を研究している。これまで発表した論文には、具平親王集(ともひらしんのうしゅう)の女御を特定して成立時期を推定したものや、源氏物語の形容詞表現「にげなし」や「かけかけし」を明らかにしたものがある。

**フィンク ウィクトル ヨーナタン FINK Victor Jonathan**

(ハイデルベルク大学 博士後期課程)

指導教授はユディット・アロカイ先生。研究対象は近世文学、江戸後期の漢詩文、特に大窪詩仏の作品。早稲田大学で河野貴美子先生の指導で 2022/2023 年留学。国際日本文学研究集会でのデータベースについての発表は二回目となる。口頭発表に近世文学会 2023 年秋季大会「十返舎一九『黄金花咲陸奥草子(こがねはなさくみちのくぞうし)』をめぐって」、論文に「The Poet's Persona 詩人の為人(ひととなり)大窪詩仏『西遊詩草』をめぐって」(Bunron 10, 2023) などがある。

## 第47回国際日本文学研究集会

開催日：令和6(2024)年5月11日(土)～5月12日(日)

会 場：国文学研究資料館大会議室及びオンライン (Zoom ミーティング及び YouTube ライブ配信)

※ハイブリッド開催

主 催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館

### 【プログラム一覧】

5月11日(土)

13:00～13:10 開会挨拶 渡部 泰明 (国文学研究資料館 館長)

総合司会 齋藤 真麻理 (国文学研究資料館 教授)

研究発表

#### 第1セッション

13:10～13:40 中世の鴉詠—京極派の時代とそれ以降—  
曹 怡 (ソウ イ／お茶の水女子大学大学院 博士後期課程)

13:45～14:15 漢詩と仏教と煎茶：江戸禅僧の詠茶詩にみる文人交遊  
梁 旭璋 (リョウ キョクショウ／重慶交通大学外国語学院 専任講師)

14:20～14:50 『英草紙』第九篇における高師直像の成立  
——並木宗輔の太平記物浄瑠璃との関係をめぐって  
王 順鑫 (オウ ジュンキン／  
中国人民大学外国語学部日本古典文学専攻 博士後期課程)

休憩 10 分 (14:50～15:00)

#### 第2セッション

15:00～15:30 『伊勢物語』における散文と和歌の関係  
—和歌に対する語り手の批判的言葉のユーモアについての考察—  
GUILLEMOT Oriane (ギユモ オリアンヌ／お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科 博士後期課程 比較社会文化学専攻)

15:35～16:05 京都儒者親四天王の社会教化をめぐる試論  
—伊藤仁斎と浅見綱斎の著述活動の比較検討を中心に—  
董 航 (トウ コウ／東京経営短期大学経営総合学科 講師)

16:10～16:40 曲亭馬琴の善悪観  
—『開巻驚奇侠客伝』に於ける「盗賊」のメタファーをめぐって—  
任 姍 (レン シャン／青山学院大学日本文学部 客員研究員)

休憩 10 分 (16:40～16:50)

16:50～17:15 インフォメーション・セッション

- ・異分野融合による総合書物学の拡張的研究・国文研ユニットの活動紹介  
木越 俊介 (キゴシ シュンスケ／国文学研究資料館 教授)  
松永 瑠成 (マツナガ リュウセイ／国文学研究資料館 特任助教)
- ・文学による沖縄からブラジルまでの繋ぎをマップする  
Welch Shannon (ウェルチ シャノン／東京大学東京カレッジ 特任研究員)
- ・『新古今和歌』熊野御幸歌群の増補について  
黄 鶴翔 (コウ カクショウ／筑波大学国際日本研究プログラム 博士後期課程)
- ・源氏物語における終助詞カシ  
小原 みと希 (オハラ ミトキ／中央大学文学研究科 博士後期課程)
- ・近世文学史、近世漢詩文の伝記著作情報を独和で紹介する「詩史データベース」  
Fink Victor Jonathan (フィンク ウィクトル ヨーナタン／  
ハイデルベルク大学 博士後期課程)

5 月 12 日 (日) 総合司会 ダヴァン ディディエ (国文学研究資料館 准教授)

第 3 セッション

- 10:35～11:05 崩れる境界線：教養小説の視座から見る芥川龍之介『杜子春』  
桂 嘉雨 (ケイ カウ／ハーバード大学 東アジア研究修士)
- 11:10～11:40 芥川龍之介初期作品「老年」と「羅生門」における高齢者表象  
高 啓豪 (コウ ケイゴウ／台湾・国立政治大学日本語文学系 専任助理教授)

休憩 90 分 (昼食・交流会) (11:40～13:10)

第 4 セッション

- 13:10～13:40 明治後期の文学的国づくり：国民新聞に詠まれた御歌所歌人の和歌  
Carbune Maria (カルブネ マリア／  
ハイデルベルク大学日本学研究科 博士後期課程 PhD)
- 13:45～14:15 鏡花文学における温泉表象：『眉かくしの霊』と『鷗狩』を中心に  
Bianco Andrea (ビアンコ アンドレア／慶應義塾大学 特別短期留学生)
- 14:20～14:50 稲垣足穂「WC」論：「遊離」の生成と未来派芸術  
梁 馨蓉 (リョウ ケイヨウ／神戸大学大学院 博士後期課程)

休憩 20 分 (14:50～15:10)



第5セッション

- 15:10～15:40 周縁に生きる人々の「声」としての「手記」  
—金子文子『何が私をこうさせたか』を中心としたジャンルの考察—  
Chaves Gonçalves Pinto Felipe  
(シャヴィス ゴンサルヴィス ピント フェリッペ／  
筑波大学人文社会ビジネス科学学術院 博士後期課程)
- 15:45～16:15 「恥」の運動と連続——大江健三郎「性的人間」論  
李 越 (リー ユエ／  
大阪大学人文学研究科日本学専攻基盤日本学コース 博士前期課程)
- 16:20～16:50 村上春樹『街とその不確かな壁』における「幽霊」の表象  
菊間 晴子 (キクマ ハルコ／  
東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター 助教)
- 16:50～17:05 閉会挨拶